

近年の抗体製剤の開発は勢いを増し、皮膚科領域では悪性腫瘍、乾癬のみならず、アトピー性皮膚炎でも多くの治験が進行中です。その効果は目を見張るものがありますが、一方で高薬価であることが懸念です。それでも乾癬、アトピー性皮膚炎の抗体製剤は他と比べればまだ安価なほうで、先日白血病の新薬の薬価が3350万円に決まったと報道されました。ちなみに海外での薬価は約4117万～6270万円で日本より高く、効果がない場合は薬代を支払わなくてもよいところもあるそうです。1回の治療で5～8割を治癒に導けるそうで、日本ではもちろん高額療養費制度が適応されます。しかしながら患者が受ける恩恵の分は税金で賄われることになり、医療財政が破綻するのではとの懸念の声も聞かれます。今回の報道は皮膚科にとって決して対岸の火事ではありません。早速5/15付けで、健康保険組合連合会、全国健康保険協会が「保険給付範囲の見直しに向けた意見」を提言しました。「重症疾患用で個人での負担が困難な医薬品は保険で確実にカバーする一方、軽症疾患用医薬品についてはスイッチ OTC をさらに推進すると同時に、医薬品の重要度に応じ、保険償還率に段階を設定している諸外国の事例も参考にしながら、保険給付範囲からの除外や償還率変更を実行すべきである」と主張しています。フランスでの保険償還率は外皮用消炎鎮痛剤で0%、抗ヒスタミン薬で30%だそうです。実は以前から痤瘡、白癬などは軽症疾患とみなされ、これらの治療薬を保険給付から除外すべきだという意見はあったのですが、今回の高薬価医薬品の登場で、議論の再燃は避けられそうにありません。2年前に問題となった保湿剤についてもしっかりです。まずはOTC化されている医薬品から保険給付の除外を図るということです。これに対しては処方OTC化されていない医薬品へシフトすることにより、かえって医療費が増大するのではという懸念もあがっています。

翻って高薬価薬剤をどう使いこなすかですが、巻頭言で大松先生も述べられているとおり、「今までの治療でよくならない」からといって、即座に新薬に飛びつくのではなく、改めて既存治療の効果を検証したうえでその適応を検討する姿勢が重要です。私も同様の症例を多数経験しています。外用アドヒアランスの向上には十分なメンテラが必要です。

患者負担の軽減を考えるのはもちろん重要ですが、自己注射の場合、長期処方の期間を長くすればそれだけ患者負担が減る一方で、患者負担軽減分は公費で賄われることになることを鑑み、患者さんにも国にも優しい薬剤選択を考える時がきていると感じています。

(五十嵐敦之)

— 顧 問 —

大原 國章 大塚 藤男

— 編集委員 —

土田 哲也 五十嵐敦之 相馬 良直 林 伸和 佐伯 秀久

「皮膚科の臨床」第61巻 第7号 6月号

2019年6月1日発行（毎月1回1日発行）

定 価（本体 2,700 円＋税）

年間購読料金 定価（本体 42,100 円＋税）

〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発 行 所 金原出版株式会社

発 行 者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03(3811) 7165〔編集室直通〕

TEL 03(3811) 7184〔営業部直通〕

FAX 03(3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印 刷 所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600

- 本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

- 〔JCOPY〕＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつと事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。